

2018年 バチカンの主な動き

1 国内政治

法王が求めるカトリック教会像は、より開かれた、貧者のための教会であり、右実現のために法王庁内の組織改革や教会全体の意識改革を推進している。一方、法王の改革路線に対する内部保守派の抵抗は強く、法王庁高官による法王への辞任要求等の動きも見られたが、右が主流勢力になるには至っていない。

近年顕著化した性的虐待問題により失墜したカトリック教会への信頼回復は急務であり、法王は2019年2月に「教会における未成年者保護」会合を開催し、透明性確保とゼロ寛容の姿勢を明確にする予定。一方、本件問題は米国保守派を中心とする反法王勢力にとっては格好の法王降ろしの機会となっており、右勢力による、法王の国際的威信の失墜を狙う動きは今後も暫く続くものと見られている。

また、法王庁内に根強い欧州偏重の傾向を是正し意識改革を推進すべく、欧州外出身の枢機卿を積極的に任命している。

2 対外政策

上述の方針に基づき、法王はアジア・アフリカ・中南米などを積極的に訪問している。また法王は何かを「始めること」及び「対話」を重視している。法王の強い意向により、2018年9月には長年の懸案だった司教任命問題について中国との間での暫定合意に至った。また、移民問題、環境問題、社会的不平等、経済界における倫理の欠如などグローバルな課題について様々な機会に積極的な発言を行っており、これは法王の国際的発言力を印象づける一方で、こうした発言を歓迎しない勢力からの大きな反発や抵抗を招いている。

3 我が国との関係

5月、日本バチカン国交樹立75周年（2017年）の締めとしての事業として、バチカン美術館内で京野菜の晩餐会（当館後援）や大使公邸における日本産食材提案会を開催した。6月には、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」がユネスコ世界遺産に登録された。同月、前田万葉大司教（大阪大司教区）が9年ぶりに日本人6人目の枢機卿に任命された。

また9月には法王自らが2019年に訪日したいと発言したことを受けて、38年振りの法王訪日実現に向けた両国関係者間での機運が大きく高まった。11月には河野外務大臣がバチカンを訪問し、パロリン国務長官への表敬、ギャラガー外務長官との会談を行い、日バチカンの更なる関係強化及び法王訪日実現に向けた意見交換が行われた。

このほか、議員交流（8月）、寛仁親王妃信子殿下の御訪問（9月）、日弁連関係者の来訪（10月）やNHKの8K放送開局記念に際するバチカンからの生中継放送（12月）など、様々なレベルでの活発な交流が行われた。

（了）